

八盲 オリンピック・パラリンピック通信

# Smile For Everyone



東京都立八王子盲学校長 山岸直人

第4号 (令和3年2月26日)

「United by Emotion」、2020 東京オリンピック・パラリンピック大会のモットーです。「感動で私たちは一つになる」という意味です。昨年3月、新型コロナウイルス感染症の流行により、私たちの生活スタイルが一変しました。そして、大会は延期されました。「ONENESS (ワンネス)」、一体感という意味です。家族、学校の先生や友達との一体感、あなた自身との一体感。厳しい状況が続くからこそ、身の回りの方々とのつながりを、見つめなおしてください。この厳しい状況を乗り越えていくための感動と出会えます。

## ◆幼児・児童・生徒向けオリンピック・パラリンピック授業 ～車いすバスケットボールの体験～

12月15日(火)に車いすバスケットボール女子チーム GRACE から講師を3名招き、幼児・児童・生徒向けに車いすバスケットボールの体験を実施しました。保護者の皆さんは、「なぜ、車いすバスケットボール」と疑問をもたれたのではないのでしょうか。車いすバスケットボールは、2020 オリンピック・パラリンピック東京大会で、本校が観戦予定の競技種目です。パラスポーツの中でも花形の種目です。



車いすバスケットボールの体験

授業では、講師である小田島理恵氏(日本代表候補選手)やレジェンド多智利枝氏の下、車いすバスケットボール用車いすに乗ったり、バスケットボールのゲームを体験したりしました。皆、新たなスポーツに触れ、異障害のある方の生活を知る機会になりました。

講師である長野志穂氏(GRACE ヘッドコーチ)の軽快なナレーション、小田島理恵氏の華麗なボールさばき、多智利枝氏の丁寧な指導を通して、車いすバスケットボールの面白さを知り、新たなことにチャレンジする楽しさを学びました。



キャスタ上げのデモンストレーション



バスケット用車いすの体験

## ◆幼稚部での活動紹介～日本の伝統文化に触れよう『節分・鬼の面作り』～

2月2日は節分(今年は3日ではない)、日本の文化に触れる良い機会でした。幼稚部では1月末の造形感覚遊びの授業で、鬼の面作りを行いました。幼児の一人は「なんで鬼に豆を投げるの?」と聞いてきました。「鬼=悪いもの」に炒った豆をぶつけると、悪いものが逃げていくということを説明すると、納得していました。幼児が自発的に「なんで?」と疑問に思い、日本文化に興味をもつのは喜ばしいことです。今後も幼稚部では季節の行事を通し日本文化に触れていきます。



幼児A作成鬼の面



幼児B作成鬼の面



幼児C作成鬼の面

#### ◆小学部での活動紹介～チームスポーツを楽しもう『グランドソフトボール』～

体育の授業で、グランドソフトボールを行いました。チーム内でボールを遠くに打つ方法や守備位置の相談をしたり、勝つための戦略を練ったりしました。ゲームが白熱してくると「ナイス!」「ありがとう!」「どんまい、次があるよ!」と自然に仲間を応援したり、励ましたりする様子が見られました。

グランドソフトボールを通じて、オリンピック・パラリンピック教育の資質の1つであるスポーツ志向を学びました。



守備をしている様子



バッティングの様子

#### ◆中学部での活動紹介～車いすバスケットボール事前学習～

車いすバスケットボールとの違いを知ることを目的に、通常のバスケットボールを事前学習で取り組みました。ドリブルやシュート、パスの練習に取り組んだ生徒からは、「普段取り組む球技は床を転がすなどの平面的な動きが多いから、空間的な動きの中で行うバスケットボールが新鮮で、特にシュートが入ったときの感覚が楽しかった。」との感想がありました。



シュートの練習



パスの練習

#### ◆高等部普通科での活動紹介～ボールをつないでシュートを決めよう～

2組の体育で、12月の車いすバスケットボールの授業に向けた活動をしました。シュートのやり方、ボールの運び方、パスの仕方を一つ一つ練習した後、教員がオフェンスに入り、簡易なゲームをしました。「Rさん、ボールちょうだい」「Iさん、そのままゴールへ」と練習を重ねる中で、ボールをつないでゴールをねらう姿勢が見て取れるようになりました。授業後の振り返りや学級での帰りの会では、「バスケット、面白かった。」などの感想が聞かれました。



ボールパスの攻防



ダンクシュート

#### ◆高等部理療科での活動紹介～「健康」をより深く考える～

理療科では、かねてから健康の保持増進に寄与する能力と態度を育むことを学習目的の一つとして学んでいます。新型感染症が猛威を振るう今年度は、患者の健康維持に加え「自ら模範となる健康管理能力」を強く意識しました。「安全な運動」「体力・免疫力の強化」等について話題にする機会を増やしました。施術者自身の血圧変動を把握したり、施術に必要な筋のトレーニング方法を模索したり等と、各授業内において新しい視点での取り組みができました。

患者様の健康はもちろんのこと、自身の健康維持についても改めて考える良い機会となりました。